

2024年度 蘇州日本人学校経営方針

1 本校の教育理念

【在外教育施設(日本人学校)の設立意義】

- (1) 国内における教育の機会均等の精神に則り、義務教育と同等の教育内容を提供する。(教育の機会均等に則った国内同様の教育の実施)
- (2) 海外勤務者が安心して子女の教育を任せることのできる施設である。(安全で衛生的な環境と設備、それを維持する組織)
- (3) 日本の文化や習慣を採り入れ、日本国民にふさわしい教育を行うと共に外国に暮らす利点を生かし、国際性を培い高める教育を実施する。(日本文化の尊重と現地理解教育の推進)
- (4) 日本人児童生徒の教育をつかさどると共に、広く現地の日本人社会の生活文化に寄与する。(日本人社会の文化センター的役割)

【学校経営の指標】

児童生徒・保護者等の実態、日本人会の願いや学校の教育課題等を把握し、将来を見通した教育実践活動を行い、「生きる力」の育成を図る。

また、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成をめざすとともに、地域や日本人会の教育力を活用し保護者・日本人会の期待に忘れられる学校経営をめざす。

- 信頼される学校 (安心安全・開かれた学校・説明責任)
- 確かな学力を定着させる学校 (学びの実感がある授業=『わかる!できた!もっと!!』)
- 豊かな心と健やかな体を育成できる学校 (思いやり・粘り強さと自主・自立・健康安全)

「楽しくなければ学校じゃない！」

～一人ひとりの成長と笑顔あふれる学校～
(コミュニケーション能力の高いグローバル人材の育成)

2 本校の使命

「日本と中国の懸け橋となる人材の育成」

わたしたちの使命は、「未来を創る子供たち」が、学校教育を通して、日本と中国の懸け橋となる人材としての成長を支援することである。

3 本校の学校教育目標

未来に向かい 明るく 元気で 心豊かな子どもの育成

児童生徒が、個人の尊厳を重んじ真理と平和を希求し、心豊かな文化の創造者に成長することを願う。そして、柔軟なアイデアと果敢なチャレンジ精神の育成をめざし、21世紀をたくましく生き抜く国際感覚を備えたグローバル人材の育成を図る。

3 めざす学校の姿・子どもの姿・教職員の姿

小中一貫でめざす子どもの姿

グローバルな視点を持ち、世界の未来と自分の夢を想像できる子ども

	学校の姿	子どもの姿	教職員の姿
知育	確かな学力を育てる教育力のある学校	学び合い、高め合い、共に育つ子ども	教育指導に目標をもち、情熱をもって教え育む教職員
徳育	自分や友達を大切にすることの育つ学校	優しい心を持ち、積極的に取り組む心豊かな子ども	子どもに寄り添い、温かく教え育む教職員
体育	心身ともにたくましい子どもの育つ学校	進んで体を動かし、体力や健康づくりに励む子ども	心身ともに健康で、全力で教え育む教職員

4 経営の方針

(1)信頼される学校(安全安心・開かれた学校・説明責任)

- ① 日本政府及び中国政府と連携し、安全で安心できる教育環境を維持する。
- ② PTA 及び蘇州日商倶楽部（日本人会）、関係機関と連携し、開かれた学校づくりに努める。
- ③ 学校教育目標の具現化のために学校経営案、学年・学級経営案、教科経営案等を作成し、見直しをもった教育活動を推進するとともに、状況を学校評価、学力テスト、学力調査等で把握して、成果・課題・方策を明らかにして、計画に反映させる循環を重視する。
- ③ 組織が有機的、効率的に機能するよう校務分掌を構築し、係・担当からの「報告、連絡、相談、確認」を徹底し、全職員が積極的な経営参画を図ることにより、安全安心で活力ある学校経営を展開し、学校課題の解決を着実に実践する。
- ④ 学校だよりや Wechat 公式アカウント、ホームページ等を通して保護者等に情報を発信し、積極的に説明責任を果たす。

(2)確かな学力とコミュニケーション能力を向上させる学校(学びの実感がある授業実践)

- ① 学習指導要領・年間学習指導計画に基づく実践を通して確かな学力の定着を図る。
- ② 日々の授業を充実させる研修に積極的に取り組み、一人一人の教師の指導力の向上を図る。
- ③ 学習行動目標「相手に伝わるように話すことができる」を重視した授業づくりをすすめ、確かな学力の定着と共にコミュニケーション能力の高いグローバル人材の育成を図る。
- ④ 1人1台端末や先端技術を活用しつつ、多様化する子供たちに対応して個別最適な学びと協働的な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高める。
- ⑤ 総合的な学習の時間の充実による、探究的な学習や教科等横断的な学習を通じた主体的・対話的な学びの実現を図る。

(3)豊かな心・健やかな体を育成できる学校(思いやり・粘り強さと自主・自律・健康安全)

- ① 基本的な生活習慣と健全で健康な心身の育成を教師一人一人が強く認識し、全教職員の共通理解の下に児童生徒理解に立った生徒指導に最大の努力を払う。
- ② 児童生徒一人一人の「よさ」をより多く見付け、自己肯定感を高め、豊かな人間関係を醸成し、「心理的安全」が図られた教育環境に努める。
- ③ 授業及び特別活動、総合的な学習の時間等と関連させて、道徳的実践力の育成を図る。
- ④ 児童生徒の内面に根ざした人権教育の充実と道徳性の育成を重視し、自主的・主体的に学習する力を育てる。

5 今年度の重点

(1) 児童生徒が安心して通い、安全で衛生的な環境で学べる教育環境の維持

- ① 日本政府及び中国政府と連携して、安全かつ健全な教育環境の長期的・安定的な維持・運営に努める。
- ② 安全衛生委員会の指導の下、一人ひとりの職員が、安全に対する意識を高め、危機管理マニュアルを活用して共通理解を図り、安全管理に努めた教育活動を行う。
- ③ 児童生徒に対し、学校安全計画に基づき、安全教育や避難訓練等の学校安全に関する教育活動を実施し、「自分の命は自分で守る」という意識の向上を図る。
- ④ 「勇気づけ」や「相互承認」を大切にして、豊かな人間関係を醸成し、心理的安全が図られた教育環境づくりに努める。
- ⑤ 児童生徒の健康指導の充実、空気清浄機、飲水器の適切な活用を行い、健康維持増進を推奨する環境づくりに努める。

(2) 保護者、日本人社会、地域との連携による開かれた学校づくりに努める。

- ① 学級懇談会・PTA活動・学校評価を通して、保護者と学校との相互理解に努め、家庭・学校の連携を図る。(広報誌作り、読書ボランティア、PTA行事への参加協力、学校行事への協力依頼等)
- ② 児童生徒の学習に必要な情報提供や施設見学、実演紹介のために、地域や日本人会の協力や人材活用を進んで行う。(工場見学、職場体験、演劇鑑賞、音楽鑑賞、伝統文化の紹介等)
- ③ 学校周辺の現地校やインター校との交流を図り、相互に学習を紹介する中で理解を深める。
- ④ 休日の学校施設開放、また、学校暦を可能な限り中国の暦と併せるとともに、授業時数の確保と児童生徒の健康維持に努める。
- ⑤ スクールカウンセラー配置し、教育相談の充実を図り、より良い関係づくりに努める。

(3) 学びの実感を伴う質の高い授業実践による確かな学力・コミュニケーション能力の定着

- ① 学習指導要領・年間学習指導計画に基づき、ICT機器の有効活用、指導形態・教材・教具の工夫により、児童生徒一人ひとりに『わかる!できた!もっと!!』という学びの実感のある授業を展開し、確かな学力の定着を図る。
- ② 全教科において学習行動目標「相手に伝わるように話すことができる」を積極的に取り入れ、確かな学力と共にコミュニケーション能力を身に付け、グローバル人材の育成を図る。
- ③ 学力に関する諸調査を通して学力の実態と学習状況について共通理解を図るとともに、課題に即した学力向上のための取り組みを実施する。
- ④ 児童生徒の発達段階や実態、教科の特殊性に応じて教科担任制、少人数指導、複数指導(TT)、個別指導を実施し、きめ細やかな指導に努める。

(4) 一人ひとりの可能性を引き出す共生社会実現に向けた教育の推進

- ① 個に応じた支援の推進を進め、組織的に児童生徒の実態に応じた教育の充実を図る。
- ② 日本語の習得が十分でない児童生徒に対する支援の充実を図る。
- ③ 全教職員で児童生徒の情報を共有することで全校的な視野に立ち、常に児童生徒の心の安定を図るための方策をとり、積極的な生徒指導を展開する。
- ④ 人権教育の推進と道徳の年間指導計画の適切な運用により、教育活動全体を通じた心豊かな児童生徒の育成を推進する。
- ⑤ 「蘇州あいさつ運動」「全校清掃活動」「仲良し班活動」を軸に、異学年との交流を通して、児童生徒の主体性と協働性の向上を図る。

(5) グローバル人材育成をめざす国際理解教育(文化交流体験・中国語・英語)の充実

- ① ネイティブ講師を配置し、英語・中国語の充実を図り、コミュニケーション能力を育てる。
- ② 児童生徒の目線で、日本や中国の自然、歴史、文化を捉えさせ、在外教育施設ならではの現地理解教育を進める。(社会科見学、遠足、宿泊体験、修学旅行、芸術鑑賞、中国・蘇州文化体験、伝統文化の紹介、現地校交流)
- ③ 中国語会話については、少人数で5段階の習熟度別授業を実施する。中国語習得への意欲を高めるために、カリキュラムを随時見直し、歌や劇、舞踊などの表現活動を取り入れる。中国語会話を活用する場として現地校交流や総合的な学習に時間の充実に図る。
- ④ 小学部英語については、全学年で「英語活動」の少人数授業(15人以下)、習熟度別授業、さらに5・6年で「小学英语」を実施する。中学部では英会話の学習を充実し、学年ごとにJSS English Hourで発表する。

(6) 将来の夢を想像するキャリア教育(キャリアパスポート・コラボ授業・職業体験)の充実

- ① 全学年でキャリアパスポートを導入し、成長や学びの振り返りをしながら自己肯定感を高め、児童生徒の思いや夢・願いを大切に育てる指導を行う。
- ② 中国・蘇州でしか学べない体験を通し、世界に目をひらき、心をひらく見方や考え方を育てる。自分の未来の想像に向けた、適切なキャリア教育を実施する。
- ③ 日系近隣企業の協力を得て多様な価値観、生き方に児童生徒が触れ、人間や社会に積極的に関わる力を育み、多面的な職業観を通してキャリア教育の充実に図る。
- ④ 中学部2年の職場体験学習を充実させるなど、各学年の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を推進し、夢や希望に向けて生きる力を育む。
- ⑤ 児童生徒・教職員・保護者が相互に納得できる進路を実現するために、情報の収集や提供、児童生徒や保護者に寄り添った進路指導を行う。

(7) 健康意識と体力向上 (Power up time・朝トレ・RJT・蘇州っ子タイム・蘇州サーキット)

- ① 年間を通して体育館開放や遊具・蘇州サーキットの活用、Power up time(小学部)・朝トレ(中学部)を実施する。また、授業にICT機器やリズムジャンプトレーニング(RJT)を導入し更なる体力向上をめざす。
- ② 放課後の時間を活用して、低学年児童が運動に親しむ機会をつくり、体づくりの運動や遊びを通じて体力の向上を図る。(蘇州っ子タイム)
- ③ 全校児童生徒の体力テストの分析を行うことで、体力向上への取り組みを進めるとともに、情報発信することで学校と家庭との連携を深める。
- ④ 健康診断の結果や学校保健計画をもとに、発達段階に応じて性教育や健康指導を行うとともに、養護教諭による健康指導や健康相談、心の悩み相談等を行い、心身の安定と向上に努める。
- ⑤ 大気の状態や気候の状況、児童生徒の実態を考慮した体育の年間指導計画(屋内・屋外活動、水泳指導)に基づき、体育授業、体育的行事を実施する。

(8) その他

- ① 法令遵守と服務規律の厳正を図る。(日本人学校の教員・職員としての責任と自覚)
- ② 教員全体の資質向上のため現地校、インター校との学校見学、授業研究を相互に行う。近隣企業や地域の協力による異業種研修、現地理解研修を職員研修として継続して実施する。
- ③ 徹底した予算管理と適切な予算執行を行う。
- ④ 教育DX推進による学びの充実と校務の改善を図る。